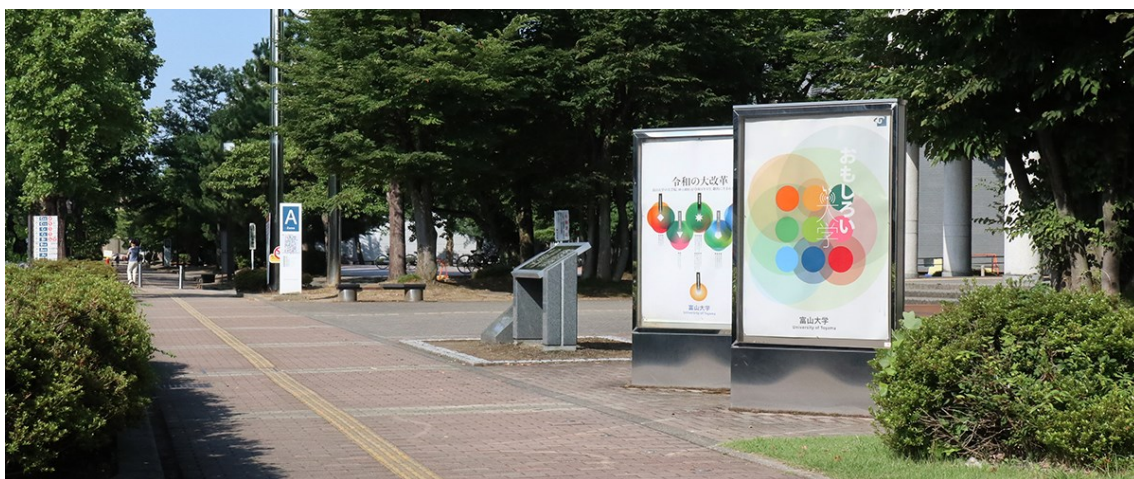


## 【日本の大学】第86回—富山大学：自然と科学、芸術の調和的發展に寄与

富山大学は本州の日本海側、ほぼ中央にある富山県の県庁所在地・富山市に本部を置く国立大学である。1949年に新制の富山大学として発足した後、2005年には県内の国立大学である富山医科薬科大学と高岡短期大学を統合したことで、現在は9学部、関連の大学院に、附属病院や和漢医薬学総合研究所を加えた11部局からなる総合大学となっている。

理念としては「地域と世界に向かって開かれた大学として、人文社会科学、自然科学、生命科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的發展に寄与する」と謳っている。



大学構内

以下、富山大学のホームページを参照しながら、大学の歴史や現況をみていこう。

大学は、標高 3000 メートルの立山連峰と水深 1000 メートルの富山湾を望む富山平野の中央部に位置している。こうした豊かな自然環境や多様な生態系のもとで、固有の文化と地域に根差した様々な産業が育ち、それが大学の発展と有為な人材の育成を支える基盤となっている。

大学の淵源をたどると、明治時代の初め 1875 年（明治 8 年）の新川県師範学校（教育学部の前身）や、1893 年の共立富山薬学校（私立）の発足（薬学部の前身）、1923 年の富山高等学校発足（人文学部・理学部の前身）、1924 年の高岡高等商業学校発足（経済学部の前身）、1944 年の高岡工業専門学校発足（工学部の前身）にさかのぼることができる。

これら諸学校を糾合して1949年に設置されたのが、富山大学である。前身の各学校を引き継いで、文理学部、教育学部、薬学部、工学部の4学部でスタートした。1953年には文理学部から独立する形で経済学部も設置されている。



図書館

## 2 国大を統合、ウィング広げる

大学院も、1963年に薬学研究科が置かれたあと、工学研究科（1967年）、人文科学研究科（1986年）、経済学研究科（1991年）などが次々に開設されている。

学部では、1977年に文理学部を改組して、人文学部と理学部に再編している。「越中富山の薬売り」の伝統を引き継ぐ薬業の蓄積が薬学部につながったが、1974年には和漢薬研究所も設置されている。

医学部の前身である国立富山医科薬科大学が開学したのは1975年である。その際医学部が置かれた。翌76年には富山大学の薬学部を移行する形で医科薬科大学の中に薬学部ができ、和漢薬研究所も移行した。附属病院は1979年に開設されている。



### 付属病院

国立高岡短期大学が開学したのは1983年である。産業工芸学科、産業情報学科の2学科だったが、2000年には、産業造形学科、産業デザイン学科、地域ビジネス学科の3学科に再編している。

以上の2大学を再編・統合する形で富山大学となったのが2005年のことである。この際、芸術文化学部が新設されたほか、医科薬科大学にあった和漢薬研究所を改組して、和漢医薬学総合研究所となった。同時に、教育学部を改組して人間発達科学部が誕生している。

この時点で学部は、人文、人間発達科学、経済、理学、工学、医学、薬学、芸術文化の計8学部となった。翌2006年には大学院の医学系研究科、薬学研究科、理工学研究科を改組して、生命融合科学教育部、医学薬学教育部、理工学教育部の再編している。

2018年には9番目の学部として都市デザイン学部が発足している。また、人間発達科学部は、2022年度から隣の石川県の金沢大学の人間社会学域学校教育学類と共同で、教育学部共同教員養成課程に生まれ変わった。



芸術文化学部・大学院芸術文化学研究科で学んだ学生による卒業・修了研究制作展「GEIBUN14」を開催

### 県内3か所に文・理9学部を展開

この結果、文科系4学部と、理科系5学部となり、キャンパスは本部のある五福（富山市五福）、杉谷（富山市杉谷）、高岡（高岡市二上町）の県内3か所に分かれている。五福キャンパスは、全学部の1年生が授業を受けるほか、2年次以降は人文、人間発達科学（教育学部共同教員養成課程）、経済、理学、工学、都市デザインの6学部の学生が勉学に励む。杉谷キャンパスは、医学部のほか、薬学部と附属病院、和漢医薬学総合研究所が集まっており、富山大学の医薬系の拠点となっている。高岡キャンパスには芸術文化学部が入っている。

人文学部は、思想、文化、歴史、言語、社会、心理、文学などに対する多様なアプローチで、人間への理解を深める知的探求の場と位置付けている。3領域8コースの下に全部で21の多彩な教育研究分野を設けている。3領域とは思想・歴史文化領域（哲学・人間学コース、歴史文化コース）、行動・社会文化領域（心理学コース、社会文化コース）、言語分野領域（言語学コース、東アジア言語文化コース、英米言語文化コース、ヨーロッパ言語文化コース）である。それぞれの領域の中には、例えば、思想・歴史文化領域の歴史文化コースには、日

本史、東洋史、西洋史、考古学の四つの教育研究分野があるなど、それぞれ専門性を持つ奥行きのある研究を目指している。



## 人文学部

経済学部は、経済学、経営学、法律学のほか、政治学、歴史学、社会学などを横断的に学べる社会科学系の総合学部である。経済学科、経営学科、経営法学科の3学科があり、1年次には、すべての学生が経済、経営、法律の基礎を学ぶ。各学科には、昼間に開校される授業を中心に受ける昼間主コースと、夜間に開講される授業を中心に受ける夜間主コースがある。昼間主コースでは、2年次からは五つの履修コースの中から、それぞれの学科が選択できる三つのコースのうち1コースを選択する。

理学部は、自然界を律する基本的な原理や法則の探求を使命とする学部である。最先端の研究を通じて、専門知識と問題解決能力を持った人材の育成を目指している。数学、物理学、化学、生物学、自然環境科学の5学科からなる。入学後、幅広い知識と豊かな人間性を育むための教養教育を受け、次に各学科の特色ある専門教育を受けて、4年生に課される卒業論文・研究につなげていく。

教育学部は、2005年に改組されて人間発達科学部となった。教員養成を重要な機能としながらも、それに留まらない教育人材養成を学部の目的としてきた。しかし、近年、小学校を主とする教員需要の高まりへの対応が求められる中で、学校教員養成機能の強化が必要との認識が高まったため、金沢大学の人間社会学域学校教育学類と共同で教員養成課程の設置を申請、2022年4月から教育学部共同教員養成課程となった。富山、金沢両大学双方から幅広く先進的な科目を提供し、教員として必要な専門的知識・技能や、子どもを理解し

て成長を支援する力を身につけられるようにする。



キャンパス全景

### 「薬の富山」の人財を輩出

薬学部は、「くすりの富山」と言われる 300 年以上の長い歴史の上に築かれた学部である。江戸時代、富山藩二代目藩主が江戸城で腹痛を訴えた福島藩主に、富山の胃腸薬「反魂丹」を分け与え、その有効性に周りの藩主たちが驚いたというエピソードに始まっているという。「反魂丹」は現在でも富山で製造されており、薬局などで購入が可能な薬である。「越中富山の薬売り」は全国的に有名で、JR 富山駅前には当時の配置薬業者（売薬さん）をイメージしたモニュメントがある。薬学部の前身である共立富山薬学校は 1893 年に、売薬資本によって設立された。その後、富山市立薬学校、富山県立薬学専門学校、官立富山薬学専門学校、国立富山医科薬科大学薬学部など、母体は変わりながら、富山の売薬の精神を受け継いでいる。

2000 年には『フォーラム富山「創薬」』を発足させ、富山大学、製薬企業、県厚生部、県薬業連合会などが一体となって富山県を活性化し、新しい予防・治療薬の開発を目指すことを目的に活動している。

薬学部には、薬剤師養成のための「薬学科（6 年制）」と、専門研究者・技術者養成のための「創薬科学科（4 年制）」が設置されており、「くすりのプロフェッショナル（薬師）」をめ

ざす人財を輩出することを目的にしている。



#### キャンパス風景

新制富山大学発足以来の学部である工学部は、2018年に大幅な組織改革を実施し、現在は工学科1学科の中に、電気電子工学、知能情報工学、機械工学、生命工学、応用化学の5コースに改組されている。改組前にあった材料機能工学科は、新たに発足した都市デザイン学部の材料デザイン工学科に移行している。

都市デザイン工学部は材料デザイン工学科のほか、地球システム科学科、都市・交通デザイン学科の3学科からなっている。学部では「地球科学」「都市と交通」「材料工学」の専門知識を融合させ、安全・安心な都市の創出と、地域創生が可能な人材の育成を目指している。

芸術文化学部のある高岡は、歴史的建造物や史跡が多くあり、江戸時代初期から続く鋳物や漆器産業を有するなど、芸術文化を学ぶには最適な環境にある。様々な伝統文化や作品群に触れながら地域社会と連携した学ぶことによって、激変する社会に対応できる柔軟な思考力と豊かな創造力を磨いていく学生を育てる。

国際化に関しては、国際交流センターを2018年に改組して国際機構を設けるなど戦略的に推進する体制をとっている。機構の中に日本語教育を担当する教育部門、学术交流協定の締結や留学プログラムの開発、学生・研究者の派遣・受け入れを支援する交流部門、外国人留学生や研究者の受け入れに必要な審査などを行う国際IR・安全保障輸出管理部門を設け

た。こうした組織のもとで、外国人留学生・研究者の受け入れを継続的、組織的にきめ細かく応援・援助をしている。外国人留学生は、学部が 79 名、大学院が修士、博士課程を合わせて 185 名である。



#### 留学生への日本語プログラム

学生数は、学部が 7930 名（うち女性 3144 名）、大学院生が 1191 名（うち女性 286 名）である。教員数は学部が 613 名、大学院が 721 名である。（いずれも 2022 年 5 月現在）

学長は齋藤滋氏である。奈良県立医科大学卒、同大学院医学研究科修了、医学博士。奈良県立医科大学の産婦人科学講師、助教授を経て 1998 年に富山医科薬科大学医学部産婦人科学教授、同大学附属病院副病院長、富山大学医学部産科婦人科学教授、同附属病院病院長などを経て 2019 年 4 月から富山大学学長。現在 2 期目で任期は 2027 年 3 月末。専門は産婦人科学。

日文：滝川 進

写真：富山大学 HP&各学科 FaceBook